

「タイ環境学習キャンプ2018」報告

大窪青樹（初参加・山梨県大月市出身）

タイからの帰国後、「タイどうだったー？」とよく聞かれる。まあ当然の話題ではあるが、正直答えるのが難しい。なぜなら自分にとって刺激が多すぎて簡潔な説明ができるほど整理できていないからだ。だから「色々あって楽しかったよー！」としか答えられていない。『話すのが面倒なんじゃなくて話題が多すぎて話せないんだ…許しておくれ。』という悔いもあったが、タイでの出来事を書く良い機会を得られたので、今後の自分のためにもここに簡単に記録を残したいと思う。

	活動場所	午前	午後	夜
1日目	バンコク	生誕祭の市場	(移動)	会食
2日目	バンコク→ダム湖	ロータス	(移動)	ロンペー(水上家屋)
3日目	ダム湖	ボートで散策	クルンクライ	
4日目	ダム湖→バンライ	カレン族訪問	養蜂講座	
5日目	バンライ	ワークショップ	ワークショップ	タイマッサージ
6日目	バンライ	(休憩)	プーワイ洞窟	宴
7日目	バンライ→バンコク	大学の猛禽類病院見学	会食	ノージープレイス
8日目	バンコク	水上市場	チャトチャ週末市場	豊田勇造ライブ
9日目	バンコク	バンプー自然教育施設	オールドマーケット	ドンムワン空港

タイでの飛行機含めの 10 日間の概要はこんな感じ。車での移動が長いためどれもざっくりとしたものになっている。あまりグダグダしないようにシンプルにふりかえっていきたいと思う。

【1日目】

念願の初海外初日、主な出来事は午前中から昼過ぎまでタイのシリキット女王の生誕祭を開催している公園に行き、夕食にラダワンさんらと会食をした。

生誕祭の市場について。公園で若林さん夫妻(若林さんはタイ在住の日本人でタイ語と日本語の通訳の先生をしている。奥さんのエーさんはタイ人で日本語とのバイリンガル)と合流した。生誕祭では食べ物の市場から様々な昆虫の展示、研究報告や体験教室等、賑やかに盛大にやっていた。3時間以上いたが全く飽きない。



▲生誕祭の市場。とにかく多種多様。

夕方からはラダワンさんらと会食に。場所は川のすぐそばにある「RIVER WINE」という店。川のそばというか床の下は川が流れている。ラダワンさんらと会話をするときは英語。ゴミさんとゴメさんも初対面の若い女性(あだ名をフランス)と日本のアニメの話で盛り上がるも自分の英会話力が乏しいことが悔やまれた。

▲ホテルの研究発表

【2日目】

今日は移動日。まずはバンコクからバンライへと移動する。名前は似ているが文化圏が大きく変わる。それにあたって、午前中はロータスという大型ショッピングモールで各自の最終準備やワークショップの材料調達、これからの食糧(というよりはほぼビール)の買い出しを済ませる。

バンライのパンダキャンプで昼食を済ませた後は再び移動。オフロードを数時間走りついた先はシーナカリングダム湖。そしてボートでロンペーという



浮遊家屋を引っ張り停泊場所へ。今朝までのビジネスホテルから急にワイルドキャンプになる格差。今日から湖上生活。



▲ボートから撮影。今回の宿泊場所。家の裏はただのジャングル。

【3日目】

今日は一日中波に揺られながら過ごす。湖上での生活は基本的にまったりしている。午前中はモーターボートで湖上の仏教の島へ行く。あんまりわからないまま軽く散策。帰りは湖上の魚市場によってロンパーに帰宅。午後は同じくモーターボートで野生の水牛を探しつつクルンクライへ。ここは世界遺産に登録されているトゥンヤン・フワイ・カーケン野生生物保護区につながっている場所だが、湖からの方向では残念ながら保護区の中に入ることはできなかった。しかし野生かどうかは怪しいが水牛は見れ、(無断で行けるところまで)クルンクライもちょっと入れた。野生を感じた。湖上はとても過ごしやすく、一日中快適。



▲水浴びでシャブーができてご満悦のゴメさん。環境については気にしない。

【4日目】

湖上生活終了。朝にモーターボートでロンパーを引っ張り、陸地へ。地に足がついた。

今日はだいたい移動。午前中は国境警察の学校へ行って、カレン村の方の話聞く。そして午後はパンダキャンプへ移動。しかも数時間は走るオフロー

ドを今回は車一台で 9 人乗らなくてはならないという修行のような帰り道。夜はパンダキャンプのオーナー、シリポンさんのハチミツについて話しあう。



▲シリポンさんの自家製のハリナシバチの巣。日本にはいない種。

【5日目】

今日は一日中ワークショップの日。朝早くから子どもたちがパンダキャンプに続々集まる。メインはゴメさんがハチミツ、空気圧、ミカン等の科学実験を行う。アシスタントとして即興でなんか遊びをやらねと言われたが、ちえのわ及び大学の蓄積を生かして実践できた。

子ども向けのワークショップは午前中のみ。昼食後はゴメさんによる大人向けのワークショップ。日本のハチミツについてスライドを交えて話していく。(なお、若林さん夫妻が通訳をしてくれるので、言語の壁はほとんどない。ありがたい。)

そして、ゴメさんの講演の後は、タイの養蜂の権威、ターンさんによる養蜂講座&ハチミツ取りの実演。

夜、念願のタイ式マッサージへ。個人的にはもうちょっと強めにやってほしかったが、それでも身体は軽くなった。さすが噂に聞くタイ式。

夕食後の雑談では、タイでタイムスリップ系のドラマが空前絶後の大流行らしい。あと、BNK(バンコク)48。「恋するフォーチュンクッキー」が今タイで有名だってよ。



▲子どもたちに「いろいろに」を教えてきた。日本語での掛け声に感動。

【6日目】

シリポンさんは朝からワークショップで大忙し。一方そのころチーム日本はすることなし。ワークショップに簡単に挨拶をした後、ゴミさんは睡眠、ゴメさんは洗濯、そして自分はエーさんから Wi-Fi を借りて各々午前中を過ごす。

午後は近くにあるというプーワイ洞窟に行った。コウモリがたくさんいて、鍾乳洞探検よりもコウモリ撮影会になった。よく観察すればコウモリも様々。複数種いたのでぶら下がり方、反応の仕方、飛び方等観察が面白い。その後、バンライの大きい寺を見たり、木曜だけ開いている市場を見たりしてパンダキャンプに戻る。



▲洞窟にいたコウモリ。撮り放題。

夜は宴。INCH ライブを彷彿とする。演奏者はバンライで有名なタイバンド(スヌカオレン)だったり、飛び入りの女性たちだったり、自分たちだったり。歌詞の意味がわからなくて音楽は世界共通。雨が降っても屋根があるところまで移動し、深夜になるまで宴は楽しく続いた。



▲宴の様子。わいわい賑やか。

【7日目】

パンダキャンプから再びバンコクに戻る。その途中でシリポンさんの息子(バン)が通うカセサート大学の見学をさせてもらう。見学地は大学内の猛禽

類リハビリテーション施設。レンジャーが治療の必要があると送られてきた猛禽類の治療とリハビリを行っていて、そこにはミミズク、ワシ、コンドル等様々な猛禽類がリハビリをしていた。話を聞いたたびにどんどん興味深くなっていく。

バンコクへの大移動の終着地はグランドビューホテル。二日目以来の帰還となった。若林さんらと次に会うのは 9 日目、そこまでは通訳なしの英語となる。そこでシリワットさんと待ち合わせをし、カフェ&会食へ。シリワットさんは王立研究所の副所長もやっていた環境教育の偉い方。会食はもちろん英語だが、近況報告だったり流行りの話だったり優雅な話をした。会食後は、シリワットさんの専属ドライバーにノイジープレイスまで送ってもらう。ノイジープレイスからはチナタッタさんとともに過ごす。ノイジープレイスではショー(主に歌)を見ながらビールを飲むという感じ。この店は自家製のビールらしく、とても飲みやすい。この店限りではゴミさんやゴメさんより飲んだ自信がある。(記憶は失ってないよ!) わいわい楽しんだ。



▲ノイジープレイス。楽しい雰囲気みんな上機嫌。

【8日目】

今日はチナタッタさんが一日つきっきりで面倒を見てくれる。午前中は水上マーケットへ。昔は交通の要となっていたらしいが、今では水の都バンコクの観光資源として存続しているらしい。ここまでタイの市場をたくさん見てきたつもりだが、まだまだ色々あるものだ。

午後はチャトチャック・ウィークエンド・マーケット。チャトチャ週末市場といったところか。巨大市場というか迷路市場というか、店が密集していて、道も曲がっていて、さらに分岐も複雑でとにかく一期一会で市場を物色。日本でもこういうのあったな

ーとしみじみ。

夜は豊田勇造のライブへ。パンダキャンプの宴から三日連続でタイの歌を聴きながらビールを飲む。豊田勇造は日本語の歌を歌うので、久しぶりに歌詞のわかる歌を聴いている。癖がなかなか強い歌手だが、心に残るものもある。おっちゃんたちも踊るくらいにはノリノリである。



▲豊田勇造のライブ。最後の曲では踊りながら店内を回るおっちゃんたち。楽しそうで何より。

【9 日目】

今夜日本に帰国するため、今日がタイ最終日。午前中は若林さん夫妻が迎えに来てくれ、海の方へ。行先はバンブー自然教育施設で、軍が管理しているマングローブ林に入り、野鳥観察をする。みんな蚊が多くて悩まされたが、野生のカワセミやコウノトリ等々無事観察できた。

午後はオールドマーケットと仏塔を見にバンブリーへ。オールドマーケットはまあ確かに下町感ある。仏塔ではタイってやっぱり仏教国だなというのを感じさせられる。そういえばこの滞在期間中、どこに行っても必ずお参りしている人を見る。日本の宗教感って本当に適当だよなあ。

ホテルに戻って最後のミッション。市場へドリアンを買に行く。ドリアンを素手で触れる熟練のおっちゃんが目の前で切ってくれる。最終的にドリアンは匂いを全く気にせず食べられるようになったが、果実の王様ってほどのものは感じないよなあというレベル。

ドリアン調達後、タイでの最後の晚餐を済ませ、空港へ。チナタッタさんから次に日本に行くときは雪が見たいということを知りつつ…。タイとの別れ。



▲最後の晚餐。まるでタイでのこれまでの食事をふりかえるようなメニューだった。しみじみする。

【10 日目】

日本時間 8 時、空港に到着。日本語に安心しながら成田空港を歩く。ゴミさんはドンムワン空港の出国時にドリアンを没収されちょっと不機嫌になっていたのがまだ続いていた。「アレは(ドリアンの入った)袋を単品で入れていたのがダメだったんですよ。ゴメさんみたいにごちゃごちゃ入れておけばよかったんですよ。フッフッフ。」とゴミさんのお言葉。

以上、ざっくりふりかえった。他にも感じたこと考えたこと学んだこと等小話はたくさんあるが、会話のネタにとっておくとしよう。以前このキャンプに参加した先輩は丸くなったと周りから言われているが、自分は何か変わっただろうか。現時点で自覚していることは特にない。初海外だったが、言語の壁は通訳してくれる人がいたり、共通言語で話したり、ジェスチャーやイラストで伝えたり、デジタルの力で他言語化したりと言語の壁を乗り越える方法はたくさんあった。

タイで一番感じたのは、科学技術も人間も食事も感情も教育も本質的な差は全くないこと。日本にはないようなことをタイでたくさん見て感じて楽しむことが、装飾の違いはあっても核は日本と変わらない。「本物の空気で呼吸すること」、これが大学時代に何度も定義してきた自分にとっての環境教育の結論で、今回十二分に学んできた。

(完)